

「栄村震災復興計画」に基づき実施した主な事業とそれに対する評価点数

	実施した主な事業	達成状況、今後の取組み	評価点数
三つの前提	前提1「安全環境の確保」 <ul style="list-style-type: none"> <li>「栄村地域防災計画」を策定、住民向けマニュアルを全戸に配布</li> <li>防災無線のデジタル化工事</li> <li>秋山地区に震度計設置</li> <li>空中放射線量測定器整備(4ヶ所)</li> <li>震災復興祈念館「絆」建設、資料の収集・展示</li> <li>防災訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災計画や施設整備は完了。</li> <li>地域の危険個所の点検や防災訓練等を随時開催する。</li> <li>震災復興祈念館を活用した防災教育(村内外)の実施。</li> <li>これらにより防災意識を高め安全な村づくりを進める。</li> </ul>	3.7
	前提2「地域資源の積極的な活用」 <ul style="list-style-type: none"> <li>栄村歴史文化館「こらっせ」開設、古文書・古民具の展示と栄村文化の発信</li> <li>小水力発電所可能性調査</li> <li>天然水を活用した官民連携の企業誘致による雇用創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備は完了。</li> <li>歴史文化館を活用した交流や学習の推進。</li> <li>小水力発電は今後とも研究を進め事業展開を図る。</li> </ul>	3.5
	前提3「集落ごとの特色ある復興」 <ul style="list-style-type: none"> <li>秋山地区への地域おこし協力隊導入</li> <li>ふるさと復興支援金による集落独自の復興・活性化事業支援</li> <li>空き家再生支援事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災後の人口減少は著しく、これからも集落支援は必要。(ふるさと復興支援金継続の検討)</li> <li>秋山地区以外にも地域おこし協力隊の導入を進め地域の活性化を図る。</li> </ul>	3.7
三つの基本方針	方針1「暮らしの拠点・集落の復興・再生」 <ul style="list-style-type: none"> <li>「総合サポートセンター」設置、復興支援員を配置し被災者支援、地域活性化活動</li> <li>復興村営住宅18棟31戸を8集落に建設、コミュニティの維持を図る</li> <li>入居者に対しては復興交付金により家賃低廉、低減事業を続ける</li> <li>自力で住宅再建を行う方への住宅再建支援、利子補給を実施</li> <li>若者等の定着を促すための住宅リフォーム支援と定住マイホーム支援</li> <li>全壊した青倉地区、森地区の公民館建設</li> <li>避難所となる地区公民館の耐震診断と改修費・建設費補助</li> <li>各集落(避難所等)にAEDと非常用発電機を配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所となる集落公民館の整備は完了。</li> <li>住宅等施設整備は完了。家賃対策事業は継続する。</li> <li>移住定住を促進するための補助事業を継続するとともに、子育てしやすい環境づくりを進める。</li> </ul>	3.9
	方針2「農業を軸に資源を活かした新たな産業振興」 <ul style="list-style-type: none"> <li>被災農地の復旧支援事業</li> <li>集落営農を推進するための育苗施設、共同利用機械の整備</li> <li>農産物販売所「かたくり」建設</li> <li>穀類乾燥調製施設整備</li> <li>ふるさと納税による農業支援</li> <li>森林資源の活用、木質チップ製造の促進</li> <li>北野天満温泉に木質チップボイラー導入、災害時にも活用可能</li> <li>着地型観光の推進、ジオパークの活用</li> <li>老朽化や震災により破損している農業施設の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害復旧事業や施設整備は完了。</li> <li>森林資源を活かした雇用の促進。</li> <li>農産物の販売促進や着地型観光を進める。</li> <li>ふるさと納税を活用した農業振興事業の推進。</li> <li>28年度から県事業による農業施設整備を実施中。</li> </ul>	3.5
	方針3「災害に強い道路ネットワークの構築」 <ul style="list-style-type: none"> <li>被災した村道の整備</li> <li>全村街灯LED化事業</li> <li>村道天代坪野線土合橋橋梁架け替え工事</li> <li>デマンドバス車両整備、ダイヤ改正(県道事業)</li> <li>国道117号回路となる県道箕作飯山線整備、箕作橋架設</li> <li>県道長瀬横倉停線の改良工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害復旧事業はほぼ完了。</li> <li>村道改良や安全環境の整備は引き続き進める。</li> <li>使いやすいバス運行に取り組む。</li> </ul>	3.9

評価点数は5点満点で採点していただいた平均点

## 復興事業に対する評価・提言

第 11 回栄村復興推進委員会（平成 28 年 11 月 28 日）

### 【三つの前提】

#### 前提 1 「安全環境の確保」

- お金を掛け、設備は整ったと思うが、これからこの施設を使ってどのように進めて行くかが問題。
- 防災訓練や災害への意識を高めて行く事が必要と思う。
- 防災意識が少しずつすすんできた様に思う。確認と訓練が必要。
- 防災訓練・防災教育を実施し、災害時に備えてください。
- 達成状況、今後の取組みについて認識は共有できるが、整備した施設を一步進めるうえでも、公民館への備蓄の機能、防災学習・訓練などの徹底、弱者世帯の正確な把握と避難体制、AED などだれでも使えることを目指す必要があると考える。

#### 前提 2 「地域資源の積極的な活用」

- 震災の後、村の歴史を守ってくれた白水先生をはじめとする方々に感謝したいと思います。捨ててしまえばそれで終わってしまうはずの物を守ってくださいました。村の財産として大いに活用してほしいと思います。
- 「こらっせ」を活用した交流や学習、充実した推進を望みます。
- 「こらっせ」の活用推進、苗場山麓ジオパークとしても推進していけばよいと思います。
- 「こらっせ」の来館者は比較的順調のようだが、大切な事は地元が「おらがこらっせ」にする必要があると思っている。地元からの発信が核になる。ここを拠点に豪雪のなか、命をつなぎ暮らしてきた歴史・文化を村民のものにすること。
- 「貸工場」については多々問題を含んでいると考えている。地域資源や雇用のことがあげられているが、多額の追加費用が掛かっている。水販売の市場は激烈で工場を使用する会社は現状では全国展開できない現状になっている。行政としても企業まかせではなく、市場（水だけに限らず、観光など）の動向を注視する目配せなどが望まれる。
- 小水力も可能性はあるが、売電機関もあることを考慮すること。

#### 前提 3 「集落ごとの特色ある復興」

- 秋山に協力隊を入れたことは、今後村に変化が起きると思います。村民に刺激と活力をあたえてほしい。
- 集落は行政に頼っています。もっと自分たちで出来ること、目標や計画を立てて進んでいける集落づくりに取り組んでいける環境を行政には協力願いたい。
- 対策を立ててもそれ以上に人口減少は進んでいく。集落支援の必要性は大である。
- 秋山地区の地域おこし協力隊は大変良いことです。他地域も導入してください。
- ふるさと復興支援金事業は、積極性はあるが活用集落（意欲は感じ）に偏りがあしく普及

していない。これからでも活用した集落がどのようにして計画を作ったのか、その後どうなったのかなど、実践の交流をすることが必要に思う。(事業に取り込まれなかった集落に集まってもらい。)

- 建物や機械といったハードが多く、事業予算の執行が単年度決算によると思える。もっとソフト面に活用できる方向にしていくことが求められる。
- 地域おこし協力隊の募集については、既婚者や世代などの構成を検討し、保育園や学校の運営などを考慮し人材を集めることが必要で、単純に応募した人の採用は検討すべき。

### 【三つの基本方針】

#### 方針1「暮らしの拠点・集落の復興・再生」

- 復興住宅を集落に作ったことは大いに評価したいと思います。集落のコミュニティーを守ることができ良かったと思います。
- 魅力ある集落づくりを目指して若者が住宅を活用してくれることを期待したい。「集落に子どもの元気な声が響く村」づくりに大いに頑張ってもらいたいと思います。
- 若者に「働く場所づくり」と「定住用住宅整備」まずは一緒に考えてほしい。
- 子育てしやすい環境づくりは、隣の津南町とも話し合いながら進めることも大事では。
- 移住・定住の促進、子育て支援の促進。
- この事業内容は全体としては評価できる。
- 「総合サポートセンター」の事業内容を独自にまとめる必要がある。
- 復興住宅の今後の活用（例えば売却など）検討が急がれる。
- 村として取り入れた、生涯現役事業については、村独自に総括をして村民に示す必要がある。

#### 方針2「農業を軸に資源を活かした新たな産業振興」

- 栄村の基幹産業は農業です。18の農業改善団体がしっかりと田んぼを荒らすことなく維持していけるように農業機械等の補助に力を入れてほしいと思います。
- 各集落も高齢化により水路の管理等大変になってきています。ふるさと復興支援事業も良かったと思いますが、20%の負担を出すことが出来ない小集落がどうなるかが気がかりです。
- 6次産業化、大いに勉強・研究してもらいたい。
- 新たな産業の開始後の指導・連携事業の推進
- 簡単にまとめれば、達成状況、今後の取組みにのようになろうが、農業を基幹産業にしている本村にあって米は勿論だが、山菜・キノコなどの山の財産を生かすことは「地域循環経済」の一つの柱にしていけるものとする。
- 高齢になり、山に入れないが「なんとかしたい」の要望は強い。雪萌え山菜の Patent と併せ、これぞ栄村という起業化に至急着手することが求められる。山菜採り（若者）～加工（お年寄り）～販売（直売所、道の駅、都市へ）のシステムづくり。

- 乾燥施設も環境アクセスが不十分なため、今後も問題が出てくる可能性が考えられる。
- ジオパーク即観光ではないし、ガイドの養成が中心でもない。この村に生きてきた、生きていることに村民が自信を持つものである。費用が掛かり辞退の自治体もある。
- 観光戦略は村が作り、それぞれの団体などが、個性ある企画を自ら作成すること。

### 方針3「災害に強い道路ネットワークの構築」

- 震災復興は完了しつつあります。よかったですと思います。
- 取り組むべき課題があるわけですので、しっかり対応してもらいたい。
- 計画に基づき推進してください。
- 高齢化の中、道路・水路などの管理や強靱化が求められる。集落とよく話し合いをすすめ、安定性を保っていくことが求められる。

### 【その他、全体的に】

- 震災復興計画、三つの前提、三つの基本方針に基づき計画・実施してこられ、達成された事業も有り、今後の取組みなども大筋ではあるが記載されていますので、出来るものから早く実施に移すことが必要かと思います。
- 今後の取組みが、今までよりさらに大変かと考えます。知恵を出し合い、さらに頑張ってください。
- 全体的には「復興計画」に沿ってインフラ整備は早く進んだと評価できる。東北へも何度か足を運んだが、詳細について比較できないが、諸事業の実施について自前の決済が出来たからと認識している。
- 「子どもの声が響く村」への基礎がためが出来たことに確信を持ち、村民に依拠し共に村づくりをしていくことが必要であると思う。
- 一方、事業に取り組むにあたって、予算ありき・事業ありきで村民との話し合い、事業内容の検討については再考するところも多々あると感じている。その事によって復興の財源の使い方がハードに傾斜し、広く（薄くてよいが）村民に行き渡らなかつたとも感じている。老婆心であるが、建物などが将来、負の遺産にならなければよいがと思っている。